

優美な富士山をまちの至るところから眺めることができる、そんな都市があるだろうか。人々は、古来より空高くそびえ立つ富士山に信仰や畏敬の念を抱き、浮世絵をはじめ様々な芸術の被写体としてきた。四季折々変化する富士山は日本人の「心」といえる。

そんな絶景を見ることができる静岡市は、東京や大阪、京都の中間に位置し交通アクセスは抜群だ。昨年夏、近郊に空港が開港し、交通の利便性はさらに向上した。人口約73万人、面積約1,400k㎡、北は3,000m級の山々が連なる南アルプス、南は日本で最も深い駿河湾に面し、都市と自然が共存している。

特産品は、お茶、わさび、みかん、いちごなど農産物から、マグロ、桜エビ、しらすなど海産物まで幅広い。特にお茶は有名で全国的に名を轟かせている。また、日本で人気のあるマグロは水揚げ量日本一として知られる。さらに、400年前に日本を統治した徳川家康が居を構えていた影響から、竹細工、蒔絵、雛具、凧など伝統工芸が盛んで、現代に至っては出荷額日本一のプラモデルやコンテンツ産業の発展に繋がっている。

フランスとの関係は、1991年静岡市がカンヌ市と姉妹都市提携を結んだことに遡る。以来、青少年の音楽交流やスポーツ交流を行っており、今回のセミナーはフランスとの関係を一層深めるため受け入れた。

テーマはシティセールスと観光振興施策。2006年「静岡市シティセールス基本方針」が打ち出され、街の魅力や認知度を高める戦略を取っている。「お茶」、「マグロ」、「ホビー（玩具）」を3本柱として国内外にPRを行っている。

セミナーでは、静岡市の概要、都市経営、シティセールスの講義を行い、風格漂うお茶室を整備した紅葉山(もみじやま)庭園、マグロの水揚げや物流の拠点となっている清水港、プラモデル製造工場の株式会社タミヤ、徳川家康将軍を祀った久能(くのう)山(ざん)東照宮、歴史的まち並みが残る宇(う)津(つ)ノ(の)谷(や)地区、伝統工芸品の制作体験ができる駿府(すんぷ)匠(たくみ)宿(しゅく)など、テーマに沿ったプログラムを用意した。特に満足の高かったのは、旧家のお茶農家への訪問で、蔵や土間のある伝統的木造日本家屋の中で静岡茶を味わってもらい、お茶畑や製茶工場の見学も交えながら製造方法や日本人の生活・習慣など多くの質問や意見がなされた。予定の時間を1時間も過ぎてしまったが、ゆっくり過ごすことができたことは参加者の好評を得たようだ。

ホームステイでは、各ホストは初めて受け入れる家庭が多かったが、様々な体験を共にしたことで掛け替えのない体験となったようだ。とあるホストは、「健康に過ごすことができ、心から喜んで下さった様子を見て、私たちもこんなに素晴らしい体験を得ることができたことに本当に心から感謝を申し上げます。」と語っている。また、静岡市

としては初のホームステイ実施であったが、フランスファンの市民が増えたこと、また、静岡日仏協会との連携強化がされたことは、うれしい副産物であった。

ホームステイを含み、一つの都市に6泊7日の滞在であったが、参加者には十分満足していただいた感触があり、静岡市の持っている観光資源の潜在能力を感じる良い機会となった。

折しも、静岡市は2010年度に観光戦略を策定するため、市民意見の募集を行っているところで、観光大国のフランスから各自治体の観光施策を聞くことができ、参考とするところは大きかった。フランスの自治体は大小問わず自分達の都市に誇りを持ちながら観光資源をPRしているということに驚かされ、静岡市も住民による観光資源の再認識・再評価が必要だと感じた。

富士山を眺め、お寿司やお茶を味わい、歴史・文化を体験し、ファッションやショッピングも楽しむことができる。日本の伝統と革新が詰まっている都市、それが小日本・静岡市。あなたが期待している日本が全てここにある。  
旅ゆけば静岡。